

# イネ苗立枯病の防除対策について

令和6年2月 5日  
鳥取県産米改良協会

令和5年産コシヒカリ種子は、異常気象等の影響により、玄米および割れもみの混入がみられます。これらは、イネ苗立枯病発生の助長要因となります。本病は発生後の防除が困難であるため、以下のとおり、基本的な予防防除に努めましょう。

## 1 イネ苗立枯病について

- ・本病は主にフザリウム属菌、ピシウム属菌、リゾプス属菌、トリコデルマ属菌等の病原菌によって発生する。
- ・病原菌ごとに発生しやすい条件が異なり、極端な温度変化、土壤の乾燥もしくは過湿等、苗の生育に不利な条件は、本病の発生を助長する。特に、低温はフザリウム属菌およびピシウム属菌、高温はリゾプス属菌による発病に好適な条件となる。
- ・玄米および割れもみの混入は本病の発生を助長する。

## 2 イネ苗立枯病の予防防除

### (1) 適切な育苗管理

育苗資材	・イチバン、ケミクロンG等を用いて、育苗箱等を消毒する。 ・育苗培土には、グリーンソイル等の市販品を用いることが望ましい(病原菌に汚染された可能性がある育苗培土を使用しない)。
出芽処理	・適切な温度(30℃程度)で行い、過度の高温は避ける。
育苗準備	・清潔な場所で育苗を行う。 ・育苗床を均平にすることで、並べた育苗箱の過度の乾燥もしくは帯水を避ける。
育苗管理	・灌水は水道水等のきれいな水で行い、乾燥・過湿は避ける。

### (2) は種時の薬剤防除

以下のどちらかの混用処理(土壌灌注)を行うことが望ましい。

ア) タチガレエースM液剤+ダコレート水和剤

イ) ナエファインフロアブル+ダコレート水和剤

各薬剤の使用量(一部抜粋)

薬剤名	希釈倍数	使用液量
タチガレエースM液剤	500~1000倍	0.5L/育苗箱
	1000倍	1L/育苗箱
ナエファインフロアブル	1000~2000倍	0.5L/育苗箱
	2000倍	0.5~1L/育苗箱
ダコレート水和剤	400~600倍	0.5L/箱
	800~1200倍	1L/箱

※処理のタイミングは、「は種後覆土前」もしくは「覆土後」が望ましい。